

静岡県立浜松西高等学校 創立80周年記念式典



挨拶をする庄田武記念事業実行委員長 中日新聞東海本社提供

創立80周年記念式典さわやかに挙行

秋晴れの好日11月20日(土)に浜松西高校創立80周年記念式典が、利町の浜松教育文化会館で、生徒、教職員と来賓の約一五〇〇人出席のもと挙行され、これまでの伝統とさらなる発展を祝った。

川島同窓会長の開式の辞に始まり、庄田武記念事業実行委員長は、「地味ながら実質的に生徒の心に残るような記念事業を行う」と宣言した。

ついで石田校長は「世界平和と人類の幸福のために役立つ人間を育てる『大地に根を張る骨太の教育』を行う」と述べ生徒、教員の

西高八十周年記念式典は、同窓会、PTA等関係の方々のご協力を得て昨年十一月厳粛に開催されました。生徒の学習環境の整備や卒業生による講演会、演奏会の実施、西高生の学校生

校訓碑を見据えて

記念事業実行委員長 庄田 武

ますますの研鑽を求めた。さらに中等部と高等部の生徒代表10人が「苦しむ人を救う医者になりたい」とか「建築家になりたい」など、それぞれ自分の夢を語り「伝統を受け継ぎ『西統改革』により新しい伝統を創る」と決意を表明した。全員による校歌斉唱の後、西井PTA会長の閉式の辞で厳粛な中にもそよ風の吹きぬけていくようなさわやかな式典が幕を閉じた。

記念音楽会

式典終了後、15分の休憩をはさんで、記念音楽会が開かれた。第一部はサクソフォン奏者の福井健太さんとピアノの細田真子さんとの共演。福井さんは「70周年の時は吹奏楽部員として

活を紹介するDVDの作成など生徒本位の手作りの記念行事を行い好評でした。記念事業の一環として本校創立以来の校訓知・仁・勇の一字ずつを刻んだ記念碑を東坂、北坂、西坂に設置しました。生徒諸君は、朝夕こ



北坂の仁の碑 東坂の知の碑



西坂の勇の碑

2006年「新春の集い」

記

日時 平成18年1月2日(月)
午後3時より
会場 グランドホテル浜松
会費 8,000円

4時間にわたった式典と音楽会は、きつと生徒の心の中に深い感銘を残し将来の心の糧になることであろう。

演奏していたという高49回卒の若い名演奏者の第2部は福井さんと西高吹奏楽部との共演となった。「才能は皆同じであるが、あきらめないで磨く努力を続けた人が報われる」とメッセージを送ってくれた。

同窓会報をご愛読ありがとうございます。西高同窓会ではこの外にホームページを運営しています。より速く、より詳しい西高同窓会ホームページを是非ご覧下さい。アドレスは下記の通りです。

<http://www.hamanishi.org>

西山台は生きています

同窓会長 川島 順三

昨年は母校浜松西高校が創立80周年の記念すべき年を迎え、



学校、PTAはもとより後援会及び同窓会挙げて皆で諸行事を祝うことができましたことはご同慶の到りです。特に同窓会としてはこれを機に毎年の同窓会後援の講演会の開催と西山賞の創設をしたことは特筆すべきことではないかと思えます。今年度は全学六年年のうち四年が中学からの生徒となりまして、校長先生の提唱された「啐啄宣言」と「大地に根を張る骨太の教育」を目指す教育活動は諸先生方の熱心な取り組みによ

大地に根付き始めた骨太の教育

校長 石田 邦明

創立八十周年の記念行事を全て終え、今年度は満開の桜と共に中等部一年生、そして初めての



中等部で育った一五七名の内進生と地元三十の中学から四三名の外進生が入学してきました。「昨年と今年で学校の雰囲気がいかに変わったのか」というのが実感です。三年前と中等部生が高等部に進学してきた今、何が一番違うのか。力強さ、スピード、緊迫感以前のものがあつたかもしれません。しかし、個性豊かで多彩なタレント、無邪気さ、おしやべりの面白さ(口の達者さ)などは増したかもしれません。

って着々と成果を上げつつあり大きな変化が起きているようです。

新制度の学年変更による生徒の体力のハンディで団体スポーツでは不利は否めませんが、それでも県の高校総体では女子陸上で個人優勝、入賞そして総合優勝を果たしたと伺って大変嬉しく思う次第です。

今年から卒業生が文字どおり半減し同窓会の予算も縮小せざるを得ず、会報送付を希望者のみにし、その分ホームページの充実をしましたので、宜しくご活用のお願ひ致します。

今年度も同窓会活動に会員諸氏の積極的ご参加とご協力を切にお願ひ申し上げます。

昨年十二月中学三年生の海外研修旅行に同行しました。マレーシアのジョホールバルの高校と交流会を行いました。マレーシアを響かせた一六〇人による大合唱はマレーシアの高校生だけでなく教師をも驚かせました。積極的に英語とジェスチャーによるコミュニケーションにアタックしていた積極さも印象的でした。明らかに高校生の良さ・パワーをもらっています。「大地に根を張る骨太の教育」は着実に西山台に根付き始めているようです。どうか、今年も母校の生徒たちにエールをお送りいただき活躍を楽しみにしていただきたいと思います。

会報送付希望ハガキを見て

現役トップ世代が圧倒的支持

二、七九九通送付希望

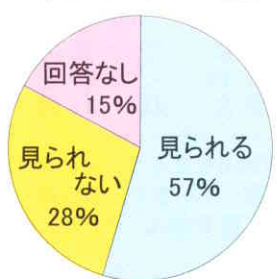
ハガキを読ませていただけてまず感じたのは、同窓生の熱い想いと会報に対する期待でした。結論的に言えば会報発行は財政的に可能なかぎり続け、希望者のみで良いから送り続けたいと思いました。

新卒業生の減少により、同窓会の収入が減る為、会報送付を希望者のみにする事を先号の第一ページに載せハガキを同封しました。又、周知徹底が行われていないという事で、新春の集いでも「会報送付希望ハガキを出されてない方へ」というチラシをいれ、周知を計りました。

その結果送付希望ハガキは電話分を含め二、七九九通ございました。卒業生の少い中卒は159通で、高卒に入ってから17回までは30通から40通位です。18回からは全員が終身会員となっているので飛躍的に増え22回の110通を最高に18回91通、19回84通など高水準で続いています。この年輩の方々が、現代社会において現役のトップとして働いている事を考えますと同窓会報の影響力はかなり大きいものがあると考えます。23回以後は少しずつ減り、40回あたりで30通位となつていきます。さらに「ホームページを

報の必要性が再認識されました。今まで16、400通發送していましたが、回答者のほとんどの方が目を通してくださっていた訳で同窓会報編集部としても大変うれい数字でした。また、「会費を徴収したらどうか」という意見もありましたが終身会員全員に發送するためには現予算にさらに百万円の上乗せが必要となり実現は難しい状況です。(会報編集委員長 相曾明夫)

ホームページを
見られる人の割合



平成十七年度総会

副会長と会計監査各一名改選

平成十七年度総会が七月二日(土)に開かれ、市川静子副会長・島津申之会計監査役の辞任の意を受けこれを受諾、後任の副会長に伊藤多恵子さん(高24回) 会計監査に前田米蔵さん(高12回) が選ばれた。

平成十七年度総会が、七月二日(土)午後三時より同窓会館会議室で開かれ、正副会長始め評議員五十数名が集まり議事を討議した。

総会に先立ち二時より役員会が持たれ、総会に提出される各議題を討議した。今回は辞任す



る役員の後を受ける新役員の選定も行われた。

二時半からの物故者慰霊祭は梅雨模様曇天の下、厳かな読経のなかしめやかに行われた。

総会では小倉副会長の司会のもと川島会長から「西高が中高一貫となつてから4年目となり、

後2年で在校生が完全に中高一貫の生徒となる。結果として卒業生が減り同窓会の今後の有り様を役員一同考えている。また、

昨年80周年を記念して設けられた西山賞と講演会を今後もぜひ続けていきたい。」と挨拶があった。

石田校長からは80周年記念行事のお礼と結果報告・進学状況の説明・インターハイでの西高生の活躍の報告、新任の中等部

教頭木村明武教諭・高校教頭田

▲議長を務める川島会長
▲新副会長・伊藤多恵子さん



中静徳教諭の紹介があった。さらに「今年は中等部からの進学生が通算四年目であるため、のびのびとしている。学校内の雰囲気もガラッと変わった」との報告もあった。

本年の議題は

一、平成16年度事業報告及び決算承認(監査報告)

二、平成16年度「新春の集い」の事業報告と決算報告

三、平成17年度事業計画及び予算案

四、副会長・会計監査各一名の選任

等が話し合われ、それぞれ了承を得た。

総会の最後に、高38回の藤崎巧二さんより「二〇〇六年新春の集い」の案内と現在の進行状況が発表された。一月二日当日はゲストにジャズシンガーの鈴木重子氏をお迎えすることが報告された。

また高26回の山下晃弘さんから十月十八日に開催される同窓ゴルフ大会の案内と協力要請があった。

物故者慰霊祭

役員会に続き、二時半からは今年度の物故者36名の合祀が行われた。数日続いた猛暑も前日まで。この日は梅雨の季節らしい曇り空の下、東坂南側のポケットパークに左右田丈夫瑞生寺住職(中19回)の読経の流れた。参加者は慰霊碑に向かって手を合わせ、同窓の士を偲びながら焼香。故人の冥福を祈った。



名簿製作請負会社

サラト

について

浜松西高同窓会は会則第六条に則り、前回の名簿発刊から五年目に当たる今年10月新会員名簿を発刊します。製作はその総ての行程を名簿製作請負会社サラト(株)に委託しています。したがって①住所等の確認のハガキ②名簿購入のお願い③広告募集④協賛会員入会のお願、等の行為がサラトによって行われています。これはすべて西高同窓会の了解の下に行われているものであり、同窓会員の皆様も、安心してご協力下さる様お願い致します。

会員名簿担当副会長 伊藤庄平

今年度物故者氏名

- ▼ 中 3 回 鈴木 茂さん
- ▼ 中 8 回 北脇 康司さん
- ▼ 中 11 回 中津川 覚さん
- ▼ 中 8 回 藤江 邦嘉さん
- ▼ 中 11 回 松本 一夫さん
- ▼ 中 13 回 清水 義徳さん
- ▼ 中 14 回 大代 守幸さん
- ▼ 中 13 回 後藤 卓爾さん
- ▼ 中 14 回 花島 徳平さん
- ▼ 中 13 回 山本雄次郎さん
- ▼ 中 14 回 鈴木新太郎さん
- ▼ 中 15 回 石川 竹治さん
- ▼ 中 13 回 民谷 恵助さん
- ▼ 中 14 回 根本準之助さん
- ▼ 中 17 回 大杉 光輝さん
- ▼ 中 19 回 大塚 正雄さん
- ▼ 中 17 回 矢野 義道さん
- ▼ 中 16 回 善福 稔さん
- ▼ 中 17 回 増田三千男さん
- ▼ 中 19 回 大山 孝利さん
- ▼ 中 20 回 渥美 賢輔さん
- ▼ 中 21 回 小野江敏浩さん
- ▼ 中 21 回 袴田 邦吉さん
- ▼ 中 21 回 佐々木 剛さん
- ▼ 中 21 回 袴田 豊さん
- ▼ 中 21 回 大石 哲司さん
- ▼ 中 21 回 青山 勝さん
- ▼ 中 3 回 高橋 正樹さん
- ▼ 中 3 回 木村 和稔さん
- ▼ 中 3 回 鈴木 利幸さん
- ▼ 中 3 回 鈴木 政巳さん
- ▼ 中 3 回 立花 至さん
- ▼ 中 8 回 中村 彰男さん
- ▼ 中 20 回 桜井 政良さん
- ▼ 中 36 回 中島 幸一郎さん
- ▼ 高 8 回 川島 達彦さん
- ▼ 高 20 回 笹田 未央さん
- ▼ 高 53 回 那須 哲也さん
- ▼ 高 55 回

平成16年度 静岡県立浜松西高等学校同窓会一般会計決算書

収入総額 16,998,598 円
 支出総額 5,156,554 円
 差引残高 11,842,044 円

収入の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰越金	11,429,486	11,429,486	0	前年度繰越金
入会金	3,705,000	3,855,000	150,000	高57回卒業生247名・中等部1回卒業生1名・終身会員入会費13名
基金利子配分金	1,800	1,800	0	甲子園出場記念基金利子配分金
繰入金	1,000,000	896,814	-103,186	新春の集い剰余金
雑収入	2,714	29,823	27,109	預金利子、名簿代
記念誌売上金	700,000	785,675	85,675	「西山台に立つ」販売代金
合計	16,839,000	16,998,598	159,598	

支出の部

科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
1 事務費	850,000	428,989	421,011	
事務局費	300,000	249,439	50,561	事務局会議費、事務処理費
需要費	550,000	179,550	370,450	複写機リース料他
2 会議費	350,000	260,118	89,882	
総会費	200,000	131,330	68,670	総会会議費
役員会費	150,000	128,788	21,212	役員会会議費
3 事業費	5,660,000	4,467,447	1,192,553	
会報費	3,160,000	2,848,578	311,422	会報48号印刷、送料等、ホームページ運営費他
助成費	1,500,000	710,723	789,277	慰霊祭、香料、激励費、歓送迎会、海外研修援助費
80周年記念事業費	1,000,000	908,146	91,854	新聞広告費、西山賞等
4 予備費	9,979,000	0	9,979,000	
合計	16,839,000	5,156,554	11,682,446	

上記の決算について証拠書類、出納簿を精査したところ、適正かつ正確であることを認めます。

☆その他基金として31,774,966円あります。

平成17年5月11日

内訳

一般会計基金 30,274,962円
 新春の集い基金 1,500,004円
 (高37回 新春の集い貸付金)

平成15年度同窓会一般会計

会計監査 島津申之® 会計監査 石川隆雄®

平成17年度 静岡県立浜松西高等学校同窓会一般会計予算書

収入総額 16,121,558 円
 支出総額 16,121,558 円
 差引残高 0 円

収入の部

(単位:円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	増減	説明
繰越金	11,842,044	11,429,486	412,558	前年度繰越金
入会金	3,075,000	3,705,000	-630,000	高58回卒業生(205名)
基金利子配分金	1,800	1,800	0	甲子園出場記念基金利子配分金
繰入金	1,000,000	1,000,000	0	新春の集い剰余金
雑収入	2,714	2,714	0	預金利子、名簿代
記念誌売上金	200,000	700,000	-500,000	「西山台に立つ」販売代金
合計	16,121,558	16,839,000	-717,442	

支出の部

科目	本年度予算額	前年度予算額	増減	説明
1 事務費	850,000	850,000	0	
事務局費	300,000	300,000	0	事務局会議費、事務処理費
需要費	550,000	550,000	0	複写機リース料他
2 会議費	350,000	350,000	0	
総会費	200,000	200,000	0	総会会議費
役員会費	150,000	150,000	0	役員会会議費
3 事業費	4,260,000	5,660,000	-1,400,000	
会報費	2,160,000	3,160,000	-1,000,000	会報49号印刷、送料等、ホームページ運営費他
助成費	1,500,000	1,500,000	0	慰霊祭、香料、激励費、歓送迎会、海外研修援助費、西山賞等
新春の集い基金	600,000	0	600,000	「新春の集い基金」へ繰入
80周年記念事業費	0	1,000,000	-1,000,000	
4 予備費	10,661,558	9,979,000	682,558	
合計	16,121,558	16,839,000	-717,442	

※科目間の流用を認める

西高ルネッサンス 「新春の集い」

去る平成十七年一月二日、グランドホテル浜松において、本年の「新春の集い」が開催されました。

今年も、「西高ルネッサンス」と環が奏でる新時代へ」をテーマとし、高37回卒業幹事会が「新春の集い」に取り組みました。

平成十八年は一月二日(月)に開催の運びとなります。以下は、十七年の報告と十八年の展望です。



高15回卒生による鏡開き

2005年 新春の集い 決算書

(単位:円)

項目	金額	備考
収入の部		
広告売上	8,785,000	399社(昨年実績337社)
チケット売上	6,776,000	847枚(昨年実績880枚)
雑収入	80,011	来賓御祝儀¥80,000受取利息¥11
新春の集い準備金	2,100,000	同窓会より
収入合計	17,741,011	

項目	金額	備考
支出の部		
会場費	8,649,454	当日参加者589名(昨年実績688名)
景品費	440,000	デジタルビデオカメラ、DVDプレーヤー他
印刷費	2,937,690	記念誌、チケット、封筒他
通信費	324,070	はがき、郵送料、通信費等
会議費	777,788	幹事会、部会、事務局経費
事務用品費	33,043	コピー用紙、ファイル、インクカートリッジ他
交際費	156,504	広告費注、チケット販売に係る費用
その他雑費	125,648	振込手数料他
納会費	1,300,000	
新春の集い準備金返済	2,100,000	同窓会へ
次年度準備金	896,814	同窓会へ
支出合計	17,741,011	

以上の通りご報告申し上げます。平成17年3月12日
静岡県立浜松西高等学校 高37回卒 代表幹事 杉田智樹
会 計 藤田克彦
上記の通り正確に処理され適正と認めます。

平成17年3月12日
会計監査 島津申之◎
会計監査 石川隆雄◎

二〇〇五年 新春の集いを終えて

代表幹事 杉田智樹

本年も「新春の集い」が、多数の同窓生の皆様のご参加により盛大に行えましたことを、あらためて御礼申し上げます。

当日は、熱気あふれる中畑清氏講演会に引き続き、新春の宴の幕が開き、還暦を迎えられた高15回卒の先輩方による鏡開き、石津なをみさん(高39回卒)のオペラ歌唱など楽しい時間を過ごすことができました。

本年は、私達高37回卒生が幹事を務めました。多くの先輩方にご助言、ご協力をいただいたことにより、準備活動も順調にすすめることができました。特に今回は記念誌作成作業に力を注ぎましたが、配布後に多くの方々からお褒めの言葉を頂戴することができ、大変嬉しく思っています。

当日の進行につきましては、至らない点はあったかと存じますが、無事に役目を終えることができ、今はホッとしています。

ご指導、ご協力いただきました皆様方、誠にありがとうございました。私達一同、今後も微力ながら同窓会活動に協力する所存でございますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

西回帰線
語ろう夢・絆ふたたび

2006年
新春の集い

二〇〇六年の新春の集いは、『西回帰線』を語ろう夢・絆ふたたびをテーマに開催いたします。

西回帰線とは次のような願いを込めて私たちが作った言葉です。回帰(もう一度戻ってくる)こと。これは母校西高から巣立ち、それぞれの人生を歩みながらも、心のより所として、もう一度西高に戻ってくる。そこには、今まで以上の絆で結ばれた自分たちがいる、と。

当日は浜松出身でジャズヴォーカリストの鈴木重子さんをお迎えしております。重子さんは一九九五年にメジャーデビューされて以来国内外で活躍され、今日では、歌うことはもとよりTV・ラジオ・CMへの出演、エッセイ執筆などジャンルを超えて活動されているとお聞きし

ています。すばらしいジャズの世界を堪能していただけることと思っております。皆様の御参加を心よりお待ちしております。

二〇〇六年 新春の集い

日時

平成18年1月2日(月)
午後3時から

会場

グランドホテル浜松

主催

同窓会長 川島 順三
当番幹事 高38回卒業生

代表幹事 藤崎巧二

事務局連絡先
ゆかねた/河住 公介

〒430-0928
浜松市板屋町102-16

TEL 053(454)3660

FAX 053(454)3662

E-mail: k-y-m@orange.ne.jp

叙勲の人

昨年の秋と今年の春の叙勲において本校同窓生でその栄に浴した人はありませんでした。

しかし昨年春に叙勲され会報に掲載することが出来なかった瑞宝小綬章受章の今村昭八さん(高4回)と石井万晴さん(高4回)の二人がありました。今回はそのお二人を紹介いたします。今村さんのお言葉だけ掲載させていただきます。

瑞宝小綬章

今村昭八(高4回)

長年にわたる自衛隊勤務の功勞により平成16年春に受章。



今村昭八さん

子供の頃大空に憧れ、西高時代(天文)と飛行機に興味を持ち、大学時代 三方原の旧陸軍飛行場でジェット機が飛んでいるのを知り、航空自衛隊への道を選びました。

入隊以来 航空機の整備の職域で勤務 組織の一員として上司同僚始め多くの人々に支えられ、最先端技術の結晶であるジェット機の整備運用の任務を全することが出来 悔いの無い自

衛隊人生を送りました。退官後OBとして「自衛隊と国民の掛橋」役の奉仕活動を続けておりましたところ、図らずも叙勲の栄に浴し光榮に存しております。

現在自衛隊で多くの西高出身者が活躍しております。これからも後輩諸兄を激励していきたいと思っております。浜松基地在任中 恩師児玉先生 山本先生 田中先生に励ましのお言葉をいただいたこといまだに心に残っております。全国各基地で勤務しましたが、地元浜松基地での勤務では、諸先輩 同窓生始め多くの皆様方からご指導ご鞭撻ご支援をいただき、任を終えることができましたこと、心から感謝し、叙勲に際しあらためて御礼申し上げます。

瑞宝小綬章

石井万晴(高4回)

長年にわたる自衛隊勤務の功勞により平成16年春に受章。

理数科閉科

昭和六十一年に開設され、十九年間に七百八人の優秀な卒業生を送り出してきた理数科が、中高一貫教育のため廃止されることになり、本年二月二十八日に閉科式を行い、その幕を閉じた。以下は初代理数科主任であった大場駿二先生の思い出の記である。

理数科創設当時の思い出

初代理数科主任 大場駿二
開科当時、県は「特色ある学校づくり」に力をいれていました。浜松西高は理数科のある学校として特色を発揮しようとしていました。

伝統の中に、新しい科を作り、育てるということはなまやさしいことではありません。伝統を破壊する要素にならないかと心配する向きもありました。担任以上に、一期生の生徒た



閉科記念の
天野浩名城大教授の講演

ちは先輩の目を気にしていません。浜松西高生であるという評価を早く得なければならぬというプレッシャーを感じていたのでしよう。

そんなとき、私は生徒に「君たちは将来、人の上に立つ人になるだろう。それには人が嫌がる仕事ができる人にならなければいけない。それができれば、周りの人はきっと認めてくれるだろう」と説きました。とりわけ、清掃には力を入れるよう指導しました。

はたして、意外に早く上級生から認められることが起こりました。新入生が嫌がる応援練習です。クラスの応援リーダーを中心に、校歌や応援歌の練

平成16年度大学入試結果

10クラスから6クラス(普通科5クラス、理数科1クラス)に減少し、卒業生の数が247名と

を念頭に置いた大学選びを今後もち続けて行っていききたいと思えます。

なった今年度の入試結果の報告をします。詳細は別表になりますが、結論から言いますと生徒は大変健闘してくれたと思えます。現役で言えば、大阪大学へ

さて、中等部入学一期生が今年度高等部へ進学してきました。高等部から入学した1クラスの生徒とともに新たな高校生活を始めています。これから3年間お互いに切磋琢磨してやはり最後の目標に向かってがんばって

2名、名古屋大学へは9名と10クラス時代の昨年よりも数で上回りました。決して妥協の産物ではなく、入学当初から行きた

同窓生の皆様はいろいろなどころでご協力を願うかもしれませんが、その際には、ぜひよろしくお願ひします。(指導課中野)

平成16年度入試結果概要

入試合格状況

	16年度			15年度			14年度		
	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計
国公立大	114	38	152	179	33	212	174	26	200
私立四大	386	134	520	501	133	634	473	87	560
管外大学	0	0	0	2	0	2	0	0	0
各種専門学校	5	0	5	9	0	9	13	1	14

平成16年度は過去の年度より合格者の実数は減っていますが、これは新卒業生数が409人から247人に減ったためであり、国公立大学への合格率は上昇しています。

平成15年度 $179 \div 409 = 43.8\%$

平成16年度 $114 \div 247 = 46.2\%$

入試結果(主要大学合格者数)

大学名	平成16年度			平成15年度			平成14年度		
	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計
北海道大	1	2	3	1	2	3	2	0	2
東北大	1	3	4	1	0	1	4	0	4
山形大	0	0	0	3	0	3	3	1	4
筑波大	3	0	3	3	0	3	6	0	6
茨城大	0	0	0	2	0	2	3	0	3
宇都宮大	1	0	1	1	0	1	0	0	0
群馬大	0	0	0	1	0	1	1	0	1
埼玉大	3	0	3	0	1	1	5	0	5
千葉大	3	3	6	9	0	9	6	1	7
お茶の水女子大	0	1	1	1	1	2	1	0	1
東京大	0	2	2	0	1	1	1	1	2
東京外大	0	0	0	0	0	0	1	0	1
東京学芸大	0	0	0	1	1	2	4	0	4
東京医科歯科大	0	1	1	0	0	0	0	0	0
東京工業大	0	0	0	0	1	1	2	1	3
東京農工大	0	1	1	1	1	2	0	0	0
東京海洋大	0	0	0	2	0	2	0	0	0
一橋大	0	1	1	0	0	0	0	0	0
横浜国立大	2	0	2	5	0	5	2	1	3
新潟大	0	0	0	0	0	0	0	1	1
金沢大	2	0	2	5	4	9	4	3	7
福井大	0	0	0	1	0	1	0	0	0
富山医科薬科大	1	1	2	0	0	0	0	0	0
山梨大	2	0	2	5	1	6	0	0	0
信州大	4	1	5	8	0	8	3	0	3
岐阜大	1	1	2	2	1	3	0	0	0
静岡大	24	3	27	38	3	41	44	3	47
浜松医大	2	0	2	7	1	8	4	1	5
名古屋工大	5	2	7	7	1	8	8	1	9
愛知教育大	3	0	3	0	0	0	1	0	1
名古屋大	9	2	11	8	2	10	10	0	10
三重大	2	0	2	3	0	3	4	1	5
京都大	0	0	0	0	1	1	0	2	2
京都工芸繊維大	0	0	0	1	0	1	0	0	0
大阪外大	1	1	2	1	0	1	1	0	1
大阪大	2	0	2	1	1	2	4	1	5
神戸大	0	0	0	1	0	1	0	0	0
奈良教育大	0	0	0	1	0	1	0	0	0
奈良女子大	0	0	0	0	0	0	1	0	1
鳥取大	2	2	4	1	0	1	2	0	2
岡山大	2	0	2	3	0	3	0	0	0
広島大	3	0	3	3	1	4	2	2	4
九州大	0	1	1	1	0	1	0	0	0
東京都立大	3	0	3	1	0	1	1	1	2
横浜市立大	2	1	3	2	0	2	0	0	0
都留文科大	1	0	1	0	1	1	3	0	3
静岡県立大	11	2	13	14	0	14	7	0	7
愛知県立大	0	0	0	2	0	2	4	0	4
名古屋市立大	3	0	3	1	1	2	2	1	3
防衛大	0	0	0	2	0	2	0	0	0
国公立計	114	38	152	181	33	214	174	29	203

大学名	平成16年度			平成15年度			平成14年度		
	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計
青山学院大	6	4	10	10	5	15	10	4	14
学習院大	0	0	0	1	1	2	0	2	2
北里大	3	3	6	4	3	7	7	1	8
慶応大	3	4	7	3	1	4	3	5	8
国学院大	5	1	6	5	0	5	0	0	0
国際基督教大	0	0	0	1	0	1	1	0	1
芝浦工大	8	5	13	8	0	8	11	3	14
上智大	0	3	3	2	2	4	1	1	2
順天堂大	3	0	3	0	0	0	1	0	1
専修大	4	2	6	6	1	7	7	4	11
中央大	4	11	15	14	1	15	4	0	4
津田塾大	0	0	0	1	1	2	3	0	3
東京女子大	2	0	2	0	1	1	3	1	4
東京農大	8	1	9	7	2	9	7	1	8
東京理大	16	13	29	8	7	15	14	4	18
東洋大	0	0	0	6	0	6	4	1	5
日本大	15	6	21	19	7	26	19	10	29
日本女子大	5	2	7	1	0	1	5	1	6
日本獣医畜産大	0	1	1	0	0	0	0	0	0
法政大	8	5	13	13	6	19	5	4	9
武蔵工大	7	1	8	4	1	5	9	2	11
明治大	16	5	21	14	7	21	10	6	16
明治学院大	4	0	4	12	4	16	5	1	6
明治薬科大	1	0	1	0	0	0	1	0	1
文教大	0	1	1	5	0	5	4	0	4
昭和女子大	0	0	0	6	0	6	4	0	4
立教大	4	2	6	2	2	4	4	2	6
早稲田大	3	6	9	4	5	9	7	6	13
神奈川大	7	3	10	10	1	11	11	4	15
常葉学園大	6	1	7	15	0	15	1	1	2
静岡文化芸大	11	1	12	13	1	14	28	0	28
聖隷クリスト大	14	2	16	33	1	34	6	2	8
愛知大	10	0	10	13	1	14	14	0	14
愛知医大	2	0	2	5	0	5	5	0	5
中京大	9	0	9	10	1	11	12	2	14
南山大	7	0	7	7	0	7	22	3	25
名城大	22	2	24	25	7	32	17	2	19
名古屋女子大	2	0	2	5	0	5	4	0	4
藤田保健衛生大	6	0	6	3	0	3	2	0	2
椛山女学園大	0	0	0	2	0	2	3	0	3
日本福祉大	8	0	8	2	1	3	3	0	3
京都外大	4	0	4	6	0	6	3	0	3
京都産大	0	0	0	2	0	2	6	1	7
京都女子大	2	0	2	7	0	7	4	0	4
同志社大	3	2	5	5	2	7	2	2	4
同志社女子大	4	1	5	7	0	7	4	0	4
立命館大	31	8	39	31	13	44	14	11	25
関西大	7	5	12	16	9	25	5	1	6
関西外大	3	0	3	4	0	4	5	0	5
関西学院大	0	4	4	6	4	10	1	1	2
私立計	386	134	520	502	133	635	473	114	587

さまざまな分野で活躍する卒業生

「文章で身を立てる」原点は西高時代に

海外特派員で

世界をめぐる

伊熊幹雄(高28回)

高校時代から、文章を書く仕事に憧れていました。一年生の時に世界文学にとりつかれ、特にフランス文学とロシア文学に惹かれました。明け方まで読んでも、まだ足りず、授業中にも隠れて読み続けました。将来、何になるのか、全く見当もつきませんでした。海外小説の世界がひたすら面白く、勉強そっちのけで夢中になりました。

おかげで、成績はガタ落ちで、二年生の時には「このままじゃ、大学進学は出来ないぞ」と先生方に心配をかけました。「文章で身を立てる」と偉そうなことを言っても、高校卒業では話にならない。その後は焦って、受験科目になる英語と現代国語、それに世界史を基礎からやり直しました。ただ、理科系は全く手が着かず、数学、物理、化学



伊熊幹雄さん

はてんでダメで追試の連続。卒業はもちろん、進級でも、先生方に目をつぶってもらいました。早稲田大学に進んでからは、「新聞記者がよかるう」と考えました。念願かかって卒業と同

時に読売新聞に入社。記者は、文章力以上に、取材力や企画力が求められる。無我夢中でやっていたうちに、やみつきになりました。1989年からは、海外特派員の仕事をしています。最初の赴任地は、浜松の姉妹都市であるワルシャワで、在任中に姉妹都市の話題を書く機会がありました。その後はワシントン、ロンドン、モスクワの特派員を努めました。1997年にロンドン在任中の仕事を評価され、「ボーン上田国際記者賞」を受賞しました。昨年から、東京大学の客員教授を命じられました。20歳前後の若い学生さんたちと話していると、三十年も前の西高時代の記憶がよみがえってきます。自分の原点はここなのですね。

伊熊幹雄氏 略歴

伊熊幹雄氏は現在、読売新聞国際部次長・東京大学法学部客員教授です。

氏は読売新聞入社後、1989年から海外特派員として広く世界でご活躍され、1997年には「ボーン・上田国際記者賞」を授賞されました。

「ボーン・上田国際記者賞」とは、優れた国際報道活動によって国際理解に貢献したジャーナリストに贈られる名誉ある賞です。



あるかぎり

青年

沢田直大(高28回)



沢田直大氏近影

思えば西高が出发点でした。小説を読むという習慣が始まったのも、一部の級友からの影響でしたし、勉強をしているふりをして大学ノートに小説を書きまくるようになったのもこの頃からでした。

大学に行く目的もただ一つ。充分に余暇を得て、学生時代から作家デビューするつもりだったので。でも、その夢が実現したのが二〇〇一年の「第七回

歴史群像大賞」。つまり四十代になるまでお預けをくらうとは想像すらしていませんでした。やっと専業作家となった今

も、バラ色の毎日というわけにはいきません。時も時、深刻な出版不況の中、新参作家が食っていくのは至難の業です。でも、今の時代でも本当にいい作品は売れている。その点、まだまだ夢があります。今の私は老成じみていた高校時代の自分より青年ばいす。人間、夢のあるかぎりには青年ですからね。

現在、沢田黒蔵の名で学研M文庫を中心に時代冒険小説というものを書いています。自分で言うのも何ですが、これが又夢があつておもしろい。小説を書いている間は、自分はまだ夢多き高校生です。

沢田氏プロフィール

沢田直大氏は、平成十四年第七回歴史群像大賞を受賞し、作家デビューをされました。朝日ソノラマ文庫のジュニア小説「コギヤル忍者」では、破天荒な活躍を描き、また学研M文庫を中心に「伊賀暗殺録 黄金の忍者」など様々な時代冒険小説を発表されています。

8センチの望遠鏡から

—浜北少年科学クラブ—

代表 古木佳和(高7回)

地域の教育力を活用したボランティア「浜北少年科学クラブ」。30年間に1400人の子ども達を育てたユニークな活動をご紹介します。現在、東京大学大学院(理学系研究科)で地球惑星科学を研究しておられる杉田精司助教授は、「私が地球や宇宙に興味を持った原点は、小学校の頃通った『浜北少年科学クラブ』にあります」と語っておられます。(浜北広報15年10月1日記載)



古木佳和さん

学ぶところは学校外にもある。そんな思いを再確認したのは「県立観音山少年自然の家」に赴任してからだ。丁度その頃、日曜日になると私の家に隣接し

た小学校のグラウンドに、子ども達の喚声があふれるようになった。ソフトボールの練習だった。見れば若い

お父さん達が先生になって指導している。「そうだ、これだ」と思い付いたのが、うちの望遠鏡で近所の子ども達に「星」を覗かせてやろうという試みだった。この思い付きがまぐれ活動にならないよう、「指導部」と親たちによる「育成会」が組織され、かくして「浜北少年科学クラブ」が形成された。昭和50年11月のことである。あれから30年。今まで途切れることなく、月1回くらいのペースで活動を続けていく。会員星を見るつどい



古木佳和氏 略歴

県立観音山少年自然の家指導主事、県教育委員会指導主事 浜北西高等学校長、芥田学園中・高等学校長を経て、現在は浜北市社会教育指導員

この活動を30年も続けさせたものは、子ども達の「好奇心」と、親や指導者などみんなの善意のボランティアの心だと思っ

は毎回子どもが40〜80人。これに家族の参加と指導者が加わり、毎回盛況だ。地域の豊かな自然に触れながら、星座観察・宿泊自然探訪・ものづくり・岩石調べなど、子どもたちの興味や好奇心を作るチャンスになればと願って活動している。30年間に参加した子どもたちは延べ1400人に上る。年1回は会員以外の市民にも輪を広げ、「星を見るつどい」を開催。最近では300人〜400人が、寒い冬の夜空を見るため集まってくれ、今や人気事業だ。

風の色を織る ③

—青春つれづれ—

教育コーディネーター 中西美沙子(高16回)



入れ替わっても威勢よく進んでゆく。たった8センチの望遠鏡から覗いた宇宙の神秘に魅せられて、かつての少年達はきつと何かの

動機をつかみ、今を生きていると確信している。少年の日の夢。それは後の人生にさまざまな開花をもたらすものと私は思うからだ。

ないまま、ITを中心とした消費文明の中に埋もれてゆく危険性ははらんでいるのが、今、という時代です。私が 西山台にいた頃。ゆ

ことばは、人と人との関係の中で意味を持ちます。ことばによって傷ついたり、相手の心を計ったりすることで、人は成長するのでは。でも今の子どもたちは、こ

こしは、担ぎ手が

筆者プロフィール
元高校英語教師。教育コーディネーターとして主に執筆・講演活動。中日新聞連載コラム「つかまえてこころ」の筆者。文章教室「スコレ」画廊「キューブ・ブルー」主宰。中日文化センター講師。

予定終了時間を二十五分も超過 第六回役員懇親会

全員いろいろな意見を述べた。第六回役員懇親会は有意義な会合であったと思う。今回は例年より二週間遅れの平成十六年八月十八日(水)六時からグランドホテル浜松で行われ、四十九人の役員が参加し食事を共にしながら、西高校と西高校同窓会の現状及び将来のために話し合った。

会は小倉副会長の流暢な司会で始まり、川島会長の「異常な暑さの中、集まってくださりありがとうございます。同窓会に会計を設け、入会金を一万円から一万五千円に値上げした」という挨拶があった。
続いて矢野教頭より「今年で中学三年、高校三年の全学年が



学校の状況を紹介する谷野教頭

つた」と学校の報告をした。ついで相曾会報編集長より「財政事情により、会報の送付を希望者のみにした」との報告があり、さらに酒井副会長から創立八十周年の記念事業に対する同窓会の対応が紹介された。更に37回卒の来年の「新春の集い」の幹事より「アンケートを配っているので返事を下さい。また、チケットの販売にご協力下さい」との依頼があった。その後、全員一言ずつ発言することになった。「はなみずきが解散することになりました。長年のご支援ありがとうございました」、「ゴルフ大会が今年は十月十八日(火)になりました



80周年記念事業を紹介する酒井副会長

そろった。インターハイでは高1の中村が二百m走で六位に入

たので、多数ご参加下さい」、「三月の古橋廣之進さんの叙勲を祝う会にご協力下さりありがとうございます。今年のオリンピックの成績が良いのもその影響があるのでは」、「ホームページを見てもらうために新しいニュースを必要とするので、提供してほしい」、「新春の集

第一回 西山賞 池端秀介君受賞

陸上東海大会新人戦で四〇〇m障害で八位に入賞したのが評価された。

二月二十八日(月)浜松西高校同窓会が十六年度より創設した西山賞の表彰式を同校体育館で同窓会入会式に先立って行った。

受賞者は高校三年生の池端秀介君一人で二年生の秋に出場した陸上東海大会の四〇〇m障害で八位に入賞したのが評価された。池端君は表彰状とトロフィーと盾を受け取ったがトロフィー



西山賞を受ける池端秀介君 中日新聞提供

いの幹事をやって同年生と親しくなったが体育系の人が多かった。そういう面が薄れていくのが寂しい」、など沢山の意見がでた。
最後に全員で声高らかに校歌を斉唱して会を閉じた。予定時間を二十五分も過ぎた八時五十分であった。

は学校の表彰欄に飾られることになる。

西山賞は西高校創立八十周年を記念して創られたもので、文化芸術、スポーツ、善行の三部門で目立った活躍をした生徒に贈られるが、十六年度はスポーツ部門の池端君一人だった。

高26回同窓会 卒業30周年記念

平成十六年八月十四日(土)私たち高26回卒業生はグランドホテル浜松にて『卒業三十周年記念同窓会』を開催いたしました。お盆という忙しい時期であり、また今年には格別の暑さの中、約七十名と言う若干少なめの参加ではありましたが、遠くは当日岩手県から駆けつけてくれた友もあり、そして何より六名の



恩師を囲んで=70名集う

恩師がご列席くださったことには、感慨も一入でした。九十歳の坂田先生を筆頭に、川口先生、脇本先生、原田先生、蛭田先生、寺田先生と、平均年齢七十五歳ともなれば、過去には体調を崩された先生方もいらつしやいます。当日はそれぞれに持ち前の個性とご健在ぶりを発揮され、私たちを安心させてくださいました。
同級生の中には西高卒業以来初めての顔もあり、懐かしさに三十年の時を一気に遡ったひととき。卒業四十周年、五十周年も、元気で集うことを誓い、先生方を拍手でお送りした後、散会いたしました。
(伊藤 陽子)

高11回同窓会 長ける西高士会

卒年の期十一を一字にした士(サムライ)会は、恒例の二月第一土曜日に、ホテルコンコルドで恩師4名を含め総勢75名の参加を得て開催された。

丁度西高創立80周年、我々も大半この時代に育ち世に出て、既に60才停年を越え自適生活に入っている。今年80周年記念



第11回士会A組のみなさん

DVDと新たに創作したCDをスクリーンに写して、母校の経緯と寄贈の楠・同窓会旗を再認するよい機会となった。遠方より足を運び又卒業以来初めてという者もあり、恩師と共に久しく顔を合せ語り合い、正に温故知新の例年に倣う盛況な同窓の夕べであった。

高部貴志雄 記

「浜西フォーラム」93名出席

「西山有志の会」を改称

第四回目の今会より「浜西有志の会」から「浜西フォーラム」に名称を変更した西高同窓生親睦会が二月十九日土ホテルコンコルド浜松で開かれ高10回から37回までの93名が出席し、なごやかながら活発な会を持った。

今回は浜松中央警察署長として活躍されていた松山和弘さん(高17回)に「署長の椅子から見えた浜松」という演題で、外国人



松山和弘前浜松中央警察署長 中日新聞提供

の比率が一番高い浜松市の現況や住み良い浜松にする為には地域社会の理解と協力が必要であると熱弁をふるって頂いた。さらに浜松東署長の山口善工さん(高17回)からも挨拶を頂いた。地域社会活性化の為には西高同窓生の協力が必要である。(高11回松山巨夫)

対浜松北高OB定期戦

野球 後半追い上げられ大敗

今年で28回目を迎えたこの定期戦は昨年から現役定期戦の前期の試合として開催された。

午前九時のプレーボールに先立ち開会式が行われ、本校OB会長が両軍選手を激励して試合は始まった。まず一回から四回までは40才以上の試合で先発は藤田睦夫(高13回)。昨年還暦を迎えたとは思えない程のボールを投げ込みスタンドを沸かせた。

一回裏本校の攻撃は二死から3番水村(高34回)、4番田力(高27回)、5番清水(高34回)の3連打と6番安達(高28回)



野球部対北高OB定期戦参加者

7番河本(高36回)の2四球で2点を奪い先行した。二回の裏には無死一塁から本末(高35回)のセッター前安打などで1点を奪い試合を有利に進めた。三回からは左腕水村がマウンドに立った。40才

以上の戦いは本校に軍配が上った。

引き続き39才以下が登場する。投手は現浜松信金野球部監督を務める藤田浩二(高36回)。三塁打を打たれたものの1失点で予定の二回を終えた。一方打線は五回に夏目(高43回)がセンター前に打つが後続なく無得点。終ってみれば大差で敗れてしまった。これで対戦成績は13勝13負2分の互角となり、勝負は来

サッカー ベテラン頑張る

平成十六年八月一日、浜松西高校対浜松北高校サッカー部OB定期戦が行われた。例年この定期戦は、八月第一日曜日にお互いの高校を会場に実施してきたが、今回は三十周年の記念大会ということもあり、遠州灘海浜公園球技場を会場に実施された。

浜松西高校石田校長の出席のもと開会式が行われ、引き続き現役A・B戦と若手OB戦、25歳以上・35歳以上・50歳以上の年別別の試合、さらには浜西中等部と浜松北高校一年生の試合、合計七試合が行われた。

50歳以上、35歳以上の戦いでは、本校OBは見事な勝利を収めたが、若手OBと現役戦では残念ながら敗北を喫し、通算では浜松北高校に敗れるという結果になつてしまった。しかし、中等部の現役生徒たちは、浜松北高校の一年生相手によく健闘して

年に持ち越された。

浜松北	0	0	0	0	1	4	5	4
浜松西	2	1	0	0	0	0	0	0
								3
参加者	藤田睦夫	渡辺	藤崎	水村	田力	清水	安達	河本
	松本	本末	鈴木	一彦	藤田浩二	夏目	佐野	杉本
	長谷川	森	勝谷	大石	大谷	山本		

引き分けに持ち込み、今後に期待を持たせてくれた。

平成十七年度は、八月七日遠州灘海浜公園で実施されるが、多くのOBの参加を期待したい。平成十六年度対北高校定期戦結果

現役B戦	浜西 1	—	2	浜北
25歳以上戦	浜西 1	—	4	浜北
50歳以上戦	浜西 5	—	0	浜北
若手OB戦	浜西 3	—	4	浜北
35歳以上戦	浜西 4	—	1	浜北
中等部戦				
浜西中等部 1	—	1	浜北 一年生	
現役A戦	浜西 1	—	3	浜北
				(高29回大瀬裕市)



部活報告

陸上部女子

インターハイ県大会・東海大会総合優勝

平成17年度、東海高等学校陸上競技対抗選手権大会が、6月17日～19日の三日間、三重県宮総合運動場陸上競技場を会場に開催されました。

この大会において本校女子は県大会に続いて初の総合優勝を果たしました。県大会に比べて選手のコンディションがすぐれないなか、各種目に健闘しました。最終種目の千六百メートルの前半までは、トップと3点差の二位に付いていましたが、このリレーで一位となって最後に逆転し、初の総合優勝に輝きました。出場した選手はもちろん、選手のサポート役や応援にかけてくれた部員一丸となつての勝利でした。



女子1600mリレーで優勝し、笑顔でゴールするアンカー中村宝子選手(2年) 6月20日の中日新聞より

※六位までが8月1日より千葉市にて行われるインターハイ全国大会に出場します。

学校対抗 女子総合 優勝(初) 女子トラック 競技の部 第一位

【東海大会の結果】

女子四百メートル	一位	飯尾 絢(2年)	55秒62
女子走幅跳	四位	中村宝子(2年)	5メートル60
女子四百メートルリレー	二位	肥田愛美(1年) 中村宝子(2年)	47秒64
女子二百メートル	三位	飯尾 絢(2年)	25秒23
女子二百メートル	四位	中村宝子(2年)	25秒29
女子千六百メートルリレー	一位	飯尾 絢(2年)	3分52秒92
女子二百メートル	四位	飯尾 絢(2年)	25秒29
女子二百メートル	四位	飯尾 絢(2年)	25秒29
女子千六百メートルリレー	一位	飯尾 絢(2年)	3分52秒92
女子二百メートル	四位	飯尾 絢(2年)	25秒29
女子二百メートル	四位	飯尾 絢(2年)	25秒29
女子千六百メートルリレー	一位	飯尾 絢(2年)	3分52秒92

野球部

24年ぶりの甲子園めざす

卒業生のみなさまには、日頃より野球部に対してご声援をいただき御礼申し上げます。本年度のチームは、秋季大会において西部大会を勝ち上がり県大会に出場しました。また、春季大会では強豪常葉菊川と大接戦を演じ、惜敗はしたものの



浜松西高創立80周年記念 野球部招待試合 対中京高

久々西高野球部らしい戦い方を展開しております。注目のエース鈴木通仁も一年時より順調に成長し、現在では県を代表する好投手として注目されています。

中等部男子バスケット部 <平成16年度>

県大会ベスト16に進出

昨年の夏、中等部男子バスケット部は、中高一貫が始まってから三年目を迎えました。一年目は一年生だけのチームで公式戦に出場し、百点以上の点数差で負けてしまうこともありました。高校生が毎日の練習で一生懸命に取り組んでいる姿を目の当たりにし、それをお手本にしながら二年間地道な練習を行ってきました。高等部の矢田先生のアドバイスも取り入れながら、着実に力をつけて夏の市内大会が始まりました。

一方打線も強力とまでは言えないものの、伝統の機動力を駆使し、少ないチャンスを実にものにすべく厳しい練習を積んでおります。総勢34名の選手とスタッフ一同、24年ぶりの甲子園出場をかけて、「銀くもりなき...」を球場で高らかに歌うべく必死に頑張りたいと思います。ご声援よろしくお願いいたします。

新チームとなった現在は、浜松市新人戦で第5位となり、今年には昨年以上の成績を残そうと先輩たちが頑張っています。昔の強い西高バスケット部にすべく、中等部もさらに精進していきたいと強く思っています。

中等部男子バスケット部のポイントゲッターの祝田龍一君(現高一)(左端)の勇姿



【高等部】

平成16年度クラブ成績一覧表

	静岡県高校総体			高校新人大会			その他協会・連盟 主催の主な大会
	西部大会	県大会	全国大会	西部大会	県大会		
陸上	女子走幅跳 優勝 女子100m 2位 女子200m 2位	女子走幅跳 優勝 女子100m 3位 女子200m 3位	女子200m 6位	女子100m 優勝 女子200m 優勝 女子400m 優勝 女子400mル- 優勝 女子走幅跳 優勝	女子走幅跳 優勝 男子400m 2位 女子100m 2位 女子400m 2位 女子400mル- 2位 女子1600mル- 2位		国体 少年女子B 走幅跳 2位 200m 8位
水泳	男子100mBr 2位 男子200mBr 2位 女子200mFr 5位	男子100mBr 2位 男子200mBr 2位 女子200mFr 6位	男子100mBr 出場 男子200mBr 出場	男子100mBr 1位 男子200mBr 1位 女子200mFr 6位	男子100mBr 1位 男子200mBr 1位		国体 男子200mBr 出場
野球	2回戦	2回戦4-6伊豆中央		5位	1回戦1-3富岳館		
サッカー	6位	1回戦0-1藤枝東					
男バレー	2回戦0-2浜松商			ベスト8	1回戦0-2静岡東		
男バスケット	第8位	1回戦		第6位	1回戦		
女バスケット	1回戦			1回戦			
男テニス		1回戦0-3沼津東					
女テニス		3回戦0-2伊豆中央 ベスト32					
ソフトテニス	団体4位						
柔道	男子-81級 8位	男子団体戦2回戦 女子団体戦1回戦		女子-63級、-57級 ベスト8			
弓道							浜松西遠地区大会 男子団体 優勝
剣道	男子個人 13位	個人戦出場		男子個人 16位	個人戦 2回戦		
ボート				男子ダブルス 5位			

	地区大会に準ずるもの		県大会に準ずるもの		東海・全国大会に準ずるもの	
	大会名	成績・結果	大会名	成績・結果	大会名	成績・結果
吹奏楽	吹奏楽西部大会		中部日本吹奏楽			
放送	NHK放送コンテスト	朗読 入選 2名	NHK放送コンテスト	朗読 出場		
写真	高写連西部撮影会	課題 金賞 2名				
演劇						
百人一首					全国かるた愛知 全国歌かるた大会 京都新春全国競技 全国かるた競技	C級優勝 D級4位 B級 3位 D級 優勝 B級 3位
囲碁将棋	将棋西部大会	1位 2位 3位 団体3位 5位	将棋県大会	個人 4位		
美術	県高校美術工芸展	奨励賞				
科学(工学)	浜松市ロボットコンクール	1位	県ロボット競技会	ベスト16		

【中等部】

	西部大会	県大会	全国大会	浜松市新人大会	県新人大会	その他の主な大会
	陸上	走高跳 3位	400mル- 4位	100mH 出場	400mル- 優勝 100mH 2位	
水泳	女子モデルリレ-6位			女子リレ-2位		
男テニス		団体戦 準優勝 ダブルス 優勝				
女テニス		団体戦 優勝	シングルス 3位			全国中学テニス大会シングルス3位 県予選 団体優勝
ソフトテニス	1回戦1-2湖東中			2回戦1-2神久呂		
サッカー				準々決勝		ホンダカップ 浜松市4位
野球				1回戦		
男バスケット	第7位	ベスト16		第5位		
女バスケット	2回戦			2回戦		
柔道		個人戦 5位		団体戦 準優勝		
剣道		男子決勝トーナメント				永峰杯 女子西部ベスト32
卓球		男子個人戦出場		予選リーグ		浜松市内大会 男子個人 準優勝

	地区大会に準ずるもの		県大会に準ずるもの		東海・全国大会に準ずるもの	
	大会名	成績・結果	大会名	成績・結果	大会名	成績・結果
吹奏楽	吹奏楽西部大会	大編成 銀賞	中部日本吹奏楽	大編成 銀賞	管弦打楽器アンサンブル東海県大会	クラリネット4重奏銀賞
	管弦打楽器アンサンブル西部大会	フルート4重奏 金賞 クラリネット4重奏金賞 打楽器7重奏 金賞 金管8重奏 銀賞 打楽器7重奏 金賞	管弦打楽器アンサンブル県大会	クラリネット4重奏金賞 フルート4重奏 金賞 打楽器7重奏 銀賞		

第28回 浜松西高

同窓ゴルフ大会

優勝は成田朋正さん(高34回)

第28回浜松西高同窓ゴルフ大会が、平成16年10月19日(火)浜名湖カントリークラブで開催されました。

当日は台風23号の影響で雨にもかかわらず、中21回から高38回までの27学年、65組・二百十名の参加がありました。

雨の中、プレー終了も遅くなってしまいましたが表彰式には多くの方々にご参加いただき、和気藹々とした雰囲気の中、各賞の発表がありました。

◆総合優勝

成田朋正(高34)

◆グランドシニア部優勝

高部 貞(高4)

◆レディース部優勝

袴田千枝子(高26)

◇ベストグロス賞(コース別)

浜名湖↓潮見坂

成田朋正(高34) 72

中↓潮見坂

池谷吉正(高28) 77

中↓浜名湖

播磨 衛(高28) 79

同窓生の皆様には物心両面で御協力をいただき、深く感謝

いたします。又チャリティー企画としてアプローチコンテストを行いました、六万五千円の協賛がありました。今回は中日新聞社を通して、新潟中越地震への義援金として送らせていただきました。御協力ありがとうございました。

幹事高25回一同

第29回

浜松西高同窓ゴルフ大会のお知らせ

■日時 平成17年10月18日(火)

■場所 浜名湖カントリークラブ

今年の高26回卒が幹事です。昨年を上回る30学年二百四十名の参加を目標に準備を進めております。8月に各学年幹事宛に大会要綱と参加申込書を送付致しますので、各学年お誘い合わせの上、多数ご参加ください。また、例年のとおり協賛の募集をしてあります。ご協力頂けます方は学年幹事又は下記担当までご連絡ください。



- 総務担当 松井照近(高26回) 090-8543-5267 teruchika@mail.wbs.ne.jp
- 協賛品担当 池戸智之(高26回) 090-8333-7853 ikedo@ikedo-e.com



会場である浜名湖カントリークラブは27ホール中18ホールまでグリーン改修が進み、すばらしいコースに生まれ変わっています。同学年でプレーしますので、同窓会の雰囲気でお楽しみください。



優勝の喜びを語る成田さん

平成16年度はなみずき会計決算書

自：H16.4.1 至：H17.3.31

一般会計	
収入の部	
前期繰越	344,883
維持費	930
雑収入	2
計	345,815
支出の部	
準備費	50,000
通信費	36,880
事務費	20,832
会務費	43,143
雑費	1,050
計	151,905
特別会計基金	
定期預金 浜松信用金庫 1口	1,000,137
" 静岡銀行 5口	900,127
雑収入	449
計	1,900,713

会計監査の結果上記の通り相違ありません。

平成17年3月31日

会計監査 大中 敬子 ①
土屋 祐子 ②

「はなみずき」解散委員会から

「はなみずき」解散記念式典のお知らせ

平成16年度をもって解散致しました同窓会女子部会「はなみずき」の解散記念式典を下記のとおり開催いたします。皆さまお誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

- * 日 時 平成17年8月28日(日) 午前9:30開場
- 解散報告会 10:00~
- 記念講演会 10:30~
- 講師 田部井淳子さん(登山家)
- 「世界の山々をめざして」
- 懇親会 12:30~
- 14:30終了予定
- * 会 場 ホテルコンコルド浜松
- * 参加費 3,000円(食事代を含みます)

*6月に「会報総集版はなみずき」と一緒に送付しました「式典参加連絡はがき」でのお申し込みは、7月末日をもって受付を終了いたしました。参加ご希望の方は至急下記までご連絡ください。

「はなみずき」解散委員会

代表 絹村和美(高22回)

E-mail kinumura245@yahoo.co.jp

Fax 053-462-5883

第6回 イギリス語学研修

昨年7月16日から8月1日の17日間
にわたって第6回目のイギリス語学研
修がヨークを中心として行われた。参
加者は男子6名、女子24名の30名であ
った。彼等は貴重な体験をしてきたよ
うだ。以下はその感想である。



西高校の範とするイートン校前にて全員で記念撮影

かけがえのない体験

高等部三年 鴨宮 慧

我々は今回の語学研修でウィ
ンザー城やヨークの城壁に行く
などしてイギリスの伝統ある史
跡や文化に触れ、感動すると共
に、異文化人との交流を通して
コミュニケーションをとること
の難しさを感じました。実際に
外国人と話す機会もほとんどな
い我々が外国に行き英語だけの
世界に入ることとは最初とても不

恩師訪問

吉川 尚 先生

西高を卒業して二十年、今年
は新春の集いの当番幹事として
久々に会った同期の仲間と、日
日準備に追われています。そん
な中、今回「恩師訪問」の原稿
を、というお話をいただき、真
っ先に思い浮かんだのは、三年
生の時に担任していただいた吉
川尚先生です。高校を卒業して
以来まさに二十年ぶりでしたが、



お世話になったメルトンカレッジの教室の中で

安でしたが、人々の温かさに触
れその不安も消え、終ってみる
と英国での日々はとてもかけが
えのないものとなっていました。
この貴重な体験ができたのも皆
様の支援のおかげであり、御礼
申し上げます。



電話の向こうから聞こえてくる
優しい声は当時と変わらず、懐
かしさで胸がいっぱいになりま
した。

先生は、磐田南高校から浜松
西高校掛川西高校を歴任され、
現在は浜松日体高校で非常勤講
師として勤務されています。貴
重な空き時間に今回お時間を取
っていただき、お話を伺って参
りました。

吉川先生が西高に赴任された
のは昭和五十三年。以来十八年
間西高に在職され、その間、旧
校舎の解体から、新校舎完成と
西高の大きな変遷を見守ってこ
られました。私たちが在籍して
いたのはまだ旧校舎のころ。少
し暗い廊下を吹き抜けていく木
枯らしや、掃けども掃けどもい
つの間にか廊下や階段のすみに
落ちていく枯葉など旧校舎の話
に及ぶと、
「そういえば、一階の外れの部
屋は風通しが悪くてね。消臭剤
を教室に置いていたこともあっ
たな。」
と、懐かしそうに目を細めてい

らっしゃいました。
また、当時と今の高校生と比
べて、どんな感想を持たれます
か、とお聞きしたところ、
「ある意味で君達のほうが大人
だったかな。今の生徒たちは、
先生、先生ってそばに来ること
が多い。人なつっこいといえ
そうなるけど、もつと『先生な
んて』というところがあってい
い。」

と…。お話を伺いながら、文化
祭や合唱コンクール、修学旅行、
そして部活動などの懐かしい場
面が走馬燈のように思い浮かび、
自分たちで何でもやっていた
つもりでいた当時の私たちを、き
つと今と変わらず温かく見守っ
ていてくださったに違いないと
思わずにはいられませんでした。
先生のお話の中で、「人並み
に悩んだり喜んだり、そして人
並みに発散しているよ。」という
言葉が大変印象的でした。毎日
の慌ただしい生活の中で、心のゆ
とりをつい、なくしてしまう
ことは多々あります。しかし、
焦ったり悩んだりしないで、そ
のときそのときの自分を素直に
受け入れていくことが、心のゆ
とりを生むことだと感じました。
以前にも増して穏やかな先生
とのひとときは、すてきな思い
出になりました。
吉川尚先生のご住所
磐田市向笠新屋七七二・二四
七〇五三八・三四・八六五七
(高三十八回 澤田直子)



西山台に時移り

西高校創立80周年を記念して中日新聞に連載された「西山台に時移り」が、冊子としてまと

「中日新聞東海本社販売部」へ
053・421・5811
▽一冊二百円(送料込み)
在庫に限りがありますので、急いで注文を。

められ発刊されました。A4版42ページのオリジナルカラーで昨年十一月二十日の記念式典の写真も載っています。▽冊子申し込み方法
浜松市内の「最寄の中日新聞販売店」または



河合九平さん(中19回・元校長)

一月末の総会において浜名湾游泳協会長に選出された。同氏は長年顧問として同協会の運営に係って来たが、水島前会長の逝去により空席になっていた会長職についた。任期は二年。

西高では水泳部員として古橋廣之進さんの一年後輩。

那須田稔さん(高3回)

去る三月二十一日、同氏が会長をしている「ひくまの出版」が

NHK総合テレビ(ホリデーにっぽん)で取り上げられ「心にとどけ命の物語」と題して45分間にわたって放送され、命の大切さを訴えた。

佐藤賢太郎さん(高51回)

アメリカで音楽活動をしている佐藤さんは二〇〇五年米国で最も権威ある合唱音楽団体ACDA(アメリカ作曲指導者協会)から作曲賞を受賞。

受賞曲「KYRIE」を六月十二日アクトシティ中ホールで日本初演し大好評をえた。

新任校長

▽浜北市立養護学校長

松本 講司さん(高22回)

▽浜松市立江西中学校長

内山 達郎さん(高23回)

▽浜松市立都田中学校長

原田 昌典さん(高23回)

▽浜松市立新津小学校長

鈴木 浩さん(高24回)

転出教職員一覧

- 勝田敏勝(教頭) 森 高
- 今田 勝(数学) 退 職
- 山畑和子(養護) 退 職
- 小田智子(国語) 浜松南高
- 萩田 積(地歴公民) 磐田南高
- 小島一浩(数学) 浜松南高
- 橋本邦宏(理科) 浜松工高
- 芥川昌也(理科) 市立南都中
- 岡本雅康(保健体育) 市立天竜中
- 平野悦久(音楽) 県教育委員会
- 加藤文人(理科) 浜松城南高
- 渡邊東一(教頭) 市立篠原中
- 永田友美(社会) 静岡中央高通信制教頭
- 櫻井 誠(国語) 市立丸塚中
- 藤田伸彦(英語) 湖西市立鷺津中
- 市川純子(養護) 市立湖東中
- 刑部 径(事務) 市立砂丘小 (敬称略)

新刊紹介

『江戸語に遊ぶ』 同窓生の著作です

「笑いと癒し」に溢れた江戸の人々の言葉と暮らし。川柳に秘められた江戸庶民の粋な遊び心を伝える。



新井益太郎 (中12回) 著

柔道で国際交流

中部部三年 山本真吾

四月十八日スイス人の柔道愛好家が来校しました。柔道部OBの根岸俊樹さんが、八人の学生を研修、遠征の一環として連れてきたからです。指導には、OGのバルセロナ五輪銀メダリストの溝口紀子さんや他のOBの方も来て下さり、いつもより賑やかで格技場が狭く感じられました。



前列右から3人目が溝口紀子さん。胸に「浜松西」のマークの入っていない人がスイス人。

スイスの学生は組み手をしっかり持たない方法を使い、しっかりと持とうとするとすぐに振り払おうとしました。同じ柔道でも国によってスタイルが異なり、国際性が表れるという事を肌で感じました。



新井益太郎 (中12回) 著

『私の知る会計学者群像』

会計学を学んで六十有余年の著書が、恩師、先輩、友人達から得た「指導と共に、その会計学者群像をまとめた一冊。

西山台編集後記

▼今49号より発送を希望者のみに行うことになった。同窓会の約一〇〇万円の収入減をサポートする為の苦肉の策だ。これと同窓会の財政危機は救われる。残念だが仕方がない。

▼印刷部数が減ったので浮いた費用で、オールカラーにした。これ又、時代の流れかも。迫力は増したと思うがいかが。新装なった会報を全会員(終身会員で無い人も含め)に送りたいかった。これは編集者の愚痴か。

▼会報と同じ編集委員で運営している同窓会ホームページの充実を計った。作るのには難しいが見るのは以外に簡単。是非ご覧あれ。

同窓会報編集委員

- 左右田丈夫(中19回)
- 近藤 哲哉(高9回)
- 相曾 明夫
- (編集委員長・高10回)
- 中西美沙子(高16回)
- 伊藤多恵子(高24回)
- 佐野 元恵(高25回)
- 伊藤 陽子(高26回)
- 渥美 意子(高27回)
- 西尾 友邦(高32回)
- 水谷 良治(高32回)
- 藤本 和浩(高34回)
- 山下 哲広(高34回)
- 杉田 智樹(高37回)
- 藤崎 巧二(高38回)
- 澤田 直子(高38回)